

見本書籍の感想文

たなか踏基

奇妙な喫茶店「見本書籍が、図書印刷株から自宅に届いたのは、平成十六年の大晦日も迫った二十九日のことである。年明けて翌年一月〜二月上旬までの間は、版元芸芸社の「刊行の手引書」を読みながら、書店陳列までの作業を理解すると共に、予ねて準備のリストに従い拙著発送作業に忙殺された。一冊毎に筆名サインの下に落款を押印した。世話になった人々、またこれからPR面で特に世話になるであろう友人等に、板紙封筒に書籍を一冊づつ包み、丁寧な挨拶状と謹呈短冊を挟み込んで冊子小包で郵送した。

謹呈者の一人に、現在大手監査法人理事長がいる。共に高校で休学し一年間遅れた仲間であるが、むしろ多感な楽器仲間と言った方が良く、先ずその親友からのメール皮切りに以下謹呈余話として、寄せられた感想文を披露してみたい。

《特急「あずさ」に惠贈書籍を携行し、松本駅到着前に読み終わっていました。信州、松本、トンボ祭、ジャズ、「まるも」、そして城山・完璧にあの時代の『吾』に戻りました。もつとも、私のジャズは横浜ではなく新宿で、「きーよ」や「ヨット」でブルーノートを、「プレス・テージ」「サボイ」でイーストコーストを聞きまくるものでした。ライブの記憶は余りなく、マイルスやジャズメッセンジャーズの初来日を厚生年金で聞いた感動が懐かしいです。という訳で、その夕方何十年振りかで喫茶店「まるも」に寄りました。壁にモジリアーニの絵は無かつたけれど、殆んど昔のまま、オーナーのジユ

ニアがコーヒーをいれてくれました。お父さんも元気の由。少しばかりの伝手もあつたので、鶴林堂に人を介してお願ひし、社長に販促書店となつてくれる了解を頂きました。芸芸社とは近い関係にあり、確実に注文し、内容も理解の上相応の陳列をしてくれるそうです。なお十冊程私に送ってください。松本をこよなく愛する人達に贈呈して宣伝してもらいます。今朝の松本は零下5、長野駅は20センチの雪、東京の暖かさに驚いています。以下取急ぎご報告まで。》

《時に何処か寂しげで空想的な印象のあの上司が、二足の草鞋を新たに履いたのでですね。甘くないのに、妙に写実的な小説の出版に先ず乾杯を捧げます。本書を読んで、技術一徹であつた時でも文学の才能をかいま見えたことが今にして沸々と思ひ起こすことが出来ました。数多くの知人とその交流、数々の科学雑誌への投稿、驚嘆するパイプレスプラントの発想など、将来を見据えた着想と広範囲な活動に何か惹きつけられるものを思ひ出します。文学を学び、科学を知り、相反するものを新たなDNAで融合させた小説には驚きと新鮮さを覚えます。束の間であつた石化時代に浮かされた多くの技術者の中に、吾を見失うことなく、日本人は日本人らしく、足元を見つめ、そしてしっかりと将来を見渡せる先輩であればこそその本書である。》

《さて、貴兄が各方面において類稀な才能に恵まれ、活動されてこれたことは、小池さんの序文を読むまでもなく誠羨ましい限りです。人生の区切りとして出版に踏切られたことも情熱の証と感嘆致します。小説からは高校時代に対

する郷愁というか、こだわりの深さを感じます。短歌の古語の使い方に違和感を覚えつつも、微妙な息遣いの面白さがあるなど思っております。更なるご健筆を。私自身は、非才を嘆じつつもその後の俳句の勉強を重ねて降ります。》

《今回の出版に御奥様始め、周囲の皆様のお力添えを得た、貴殿の気持ちと感情を深く味合わせて戴きました。このような小説では、言葉遣いにもキメ細かい神経が要求されるだけにご苦労も多かったことと存じます。私も在職中に専門書を5冊程書かせて戴きましたが、最後に出版した「知能材料」という読物風の小冊子が大変だったことを思い出しておりました。》

《ご上梓誠におめでとございます。御惠贈戴き恐縮致しております。ダンスは運動としてやっております。ご一緒に踊れる機会があると宜しいですね。どうぞご自愛下さいませよう。》

《本音の話、私自身は現代っ子であるため、普段は小説等はあまり読まない方ですが、一気に読み終えました。「横濱 JAZZ Age」が感情移入がし易く、惹き込まれました。始まりの「これは、私が濱で出会った元ジャズメン、森村慎次郎の話である。」から、小説といわれなければ、モデルが存在するのだろうか、ノンフィクションであろうと思ふ位の驚きでした。また主人公慎次郎が、母子世帯である私と同じ境遇で(無論、私は父を可哀想と感じることは絶対ありませんが)、本音で語れない自分、類は類を呼ぶ仲間の存在等、すっかり自分にシンク口していました。私の場合、人に誇れる天性のモ

(慎次郎のアルトサククス)は、絶対的な道徳信念やそれに基づいた麻雀でしかみせられず、今私は、ゲームセンターで流行しているネット麻雀のLive中継でトップクラス(現在7位)です。私の打ち筋に感動してか、人が寄って来るようになりました。新大生が大半であり、土木関連の人、六十五歳の方から十八歳のフリータ等、ネット上のチームとして、十人以上のメンバー構成になっていきます。もうちょっと、次元をあげた高度な表現方法があればと思うのですが、人生経験を積むしかないと思っております。

「奇妙な喫茶店」は、カラクリ部分は現代社会で起こりえる(すでに起こってしまった?)事実を、予見して四十年前に書かれていたのが驚きです。また、当時から趣味多彩であることがうかがえる文章であり、モディリアーニの絵、ダンスのこと、医学的なこと、山伏修験者のこと、そして何よりも歴史的事実をマッチングされた内容には、驚きました。タキオンなどの解説、ダンスの歴史的背景(狩猟民族の友好表現)の解説、パーキンソン病の解説等、アメリカドラマというスタートレックの理論的解説を聞いているようで、成る程と思う内容でした。

一つ小説家としてお答え願えればと思うのですが、書く際には、人間関係などのフローチャート、歴史年表等を、紙に落としてから書き上げるのでしょうか?頭の中で全てがリンクしているのであれば、さらに驚きの限りです。「喫茶店」という奇妙な世界がここにあっ

た。」との締め括り、現代、個が優先となっている中、人が触れ合う場所が減ってきているなど感じた部分があります。INTERNET社会が全て悪いという訳ではないのですが、直接人と話すスペース(俗に言う井戸端スペース)が減っているがため、ネット仲間の集団自殺等生まれるのではないかと思います。

二話全体を通じて、信州の情景についての描写が、話をさらに印象付けていると思います。信州に旅行に行きたくなるような気分でした。松尾芭蕉の奥の細道の如く、写真入で句を詠まれたものを信州回顧録のような作品を出されればと思っております。また、音楽、楽器の存在も人間の心情描写に噛んできているというのが印象的でした。素人ながらJAZZは書で言う草書であり、楷書を知らなければ書けない事実ではなかるうかと思っております。私はJAZZ史には残念ながら興味ありませんが、ファンには堪らない成る程の一冊であろうと思えました。》

《初の出版おめでとうございます。昨日UPバックにて、お祝いの気持ち、知る人ぞ知る『雪中梅』を送りましたのでお納め下さい。また長岡で懐かしの覚張書店に取り寄せで注文しました。あの店も勢いをはっていた大手通りから撤退し、外商(注文のみ)だけの店になってしまいました。蔦屋、戸田書店が郊外に出てきて太刀打ちできなかつたみたいですね。店の跡は戦災資料館になっています。私には難解で書評の力はありません。正直言っ

て一気に読了と言つ訳にはいきませんでした。私の好みは「立原正秋」「渡辺淳一」「藤沢周平」「池波正太郎」等です。「司馬」も結構読みました。またの再会を楽しみに、そして益々のご健筆を祈念して。》

《本患贈戴き有難うございます。貴君の文才については不幸にして知らず驚いています。月末まで多忙で余裕が無いので、月末に読むのを楽しみにしています。何はともあれ、早速ラッキセブンの七冊を購入し知人に配布致します。二月に入ってから、貴君の都合の良い日に北上尾PAPAの例の居酒屋で祝杯を挙げ、その折に貴君から引き渡して戴くという案は如何でしょうか?厚かましいですか?》

始めの内こそ、郵便局の冊子小包を利用したが、知恵が付いて安価な宅急便に切替えてからの差額は、実に一冊当り八十円もあつたからだ。代金は300^{グラム}を越すと、郵便が二九〇円に対し、メール便は二一〇円である。しかも集配デポ窓口は何度も足を運ぶ内、御馴染のおばさんが「チヨット越えてるだけだから」と、更に一六〇円に減額サービスしてくれたのである。何と最後は、一冊百二十円もの差額となつたから皮肉である。始から宅急便にするべきだったと少し悔が残った。謹呈者への発送作業を通じて、行政の質の悪さを体験し、とんだところで小泉首相肝入りの郵政民営化構想の将来を危ぶむ結果となつた。